

平成30年度 学校評価 自己評価書

あま市立伊福小学校

1 今年度の目標

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり助け合う児童

【体】明るくたくましい児童

(2) 本年度の重点努力目標（あま市教育立市プランに基づく）

ア 確かな学力の定着をめざし、一人一人の個性が生きる学習活動の充実を図る。

- ・ 学習規律の確立（チャイム着席、学習姿勢・家庭学習の習慣化）
- ・ 言語活動の充実（読書活動、しゅびータイムの充実）
- ・ わかる授業の工夫（基礎基本の徹底、学び合い活動の推進、めあてと振り返りの意識づけ）
- ・ 意欲・主体性を高める工夫（学び方を学ぶ、ICTの活用、問題解決的な学習）

イ 教育財産の継承・発展及び新しい教育財産の創造をめざす中で、豊かな心や健やかな体を培う。

- ・ 児童会・委員会活動の充実（主体性、責任感の育成）
- ・ 各種競技会への意欲的な参加（達成感、自信と自己肯定感を高める）
- ・ 運動会、合唱発表会等の学校行事の充実（表現力、協調性の育成）

ウ 働き方改革を進め、心身の健康を保ち、持続可能な教育活動をすすめられるようにする。

- ・ 授業力向上研修を推進し、効率的な教材研究と児童の学力向上との両立
- ・ 継続的な行事や業務の見直し、ライフ＆ワークのバランスのとれた生活
- ・ 風通しのよい職場、個性を生かし、補い合い、助け合える職場環境

エ コミュニティスクールへの移行を通して、家庭や地域との連携を進め、信頼と協調が得られるように努める。

- ・ 各教科や総合的な学習などへの地域人材の活用（JA・地域コミュニティ・ボランティア）
- ・ 学校からの情報の発信（ホームページの充実）
- ・ PTAと各団体との連携した取組の充実と発展

オ 安全教育の充実を図る。

- ・ 安全・安心体制…見守り隊の維持・発展、緊急連絡体制の整備・活用、自転車や登校時の交通マナーの向上、学校防災教育の充実
- ・ 環境整備…心を育む校内環境の美化・整備

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成31年1月15日（火）～20日（日）

(2) 調査項目 別紙資料のとおり

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

児童241名／243名 保護者 255名／264名 教職員20名／20名

3 調査結果 別紙資料のとおり

4 考察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

- (1) 全体的には、昨年同様ほとんどすべての項目で児童・保護者とも80%以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答を得ることができた。特に、保護者からは参観する機会、校外での活動、学級での生活、外遊び、職員の礼儀などについての項目で高い評価を受けた。
- (2) 学校と家庭との連携については、ホームページや学年通信で必要な情報を提供したり、絆ネットや緊急情報を発信するなどしている一方、保護者との連絡も担任を通じて密に行っており、概ね保護者や地域の願いに応える教育を行っているとの評価をいただいた。
- (3) 児童の生活については、ほとんどの児童が学級の中では友達と仲良く生活していると答えている。

ただし、毎日学校へ行くのが楽しいかどうかについては、約 18%の子から否定的な回答があった。本年度も不登校児童があり、全く学校へ通えない児童もいる現状を考慮し、今後不登校児童への組織的な対応の充実を図っていかなければならない。

- (4) 授業については、教員が適切な評価をしているか、T Tでの指導はどうか、本年度学校全体で研究に取り組んできた話し合いを取り入れた授業改善はどうかなどについて、概ね児童からは好評であった。ただし保護者については「よくあてはまる」より「ややあてはまる」と答えた方が昨年度に続き多く、意識の差がみられた。授業参観等で実際の様子を見てもらったり、学年通信等で紹介したりして、実際の取組をもっと知らせていきたい。また、本年度は一人一研究に取り組んできたが、引き続き教員の授業力向上に努めていきたい。
- (5) 学校行事については、猛暑の中の運動会練習時間の短縮、合唱発表会など新しい行事作りなど積極的に改革を進めてきた。限られた時間の中での運動会ではあったが、児童の満足度は高く、保護者からも一定の評価が得られた。また合唱発表会については、児童・保護者から高く評価されて、今後の伊福小の特色となる可能性がみえてきた。
- (6) 教職員に対しては、教育に熱心で礼儀正しく対応しているなど、児童・保護者は好印象を抱いているようである。悩み事相談への対応については、一昨年度から児童との個別面談の時間を設定し全校一斉に行うことが定着しているが、児童の中にはまだ26%の児童が相談しにくい、十分に話を聴いてくれないと感じている。いじめの早期発見・対応のためにも、個別に児童と相談する機会を十分にとって丁寧に対応していきたい。
- (7) 安全・施設管理については、見守り隊やながぐつの会、P T Aなどの協力を得ながら進めている取り組みが、保護者から高い評価をいただいた。また、清掃状況もおおむね良いとの評価をいただいた。一方教職員自身の評価は清掃と設備や備品について低く、さらなる清掃活動の徹底と施設・備品の修繕・整備については、市当局の理解が得られるよう努めていきたい。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 一人一人の先生方の丁寧で粘り強い日々の指導のおかげで多くの児童が学級での生活を楽しくしており、友達関係も概ね良好なようである。今後も一人一人を大切にしたいきめ細かな対応に心がけていきたい。
- (2) 外遊びの奨励や授業改善は、児童・保護者からよい評価を得ることができた。来年度は学習指導要領の本格実施を見据え、主体的対話的で深い学びの実現にさらに努めていきたい。
- (3) 運動会に向けての練習時間短縮は、保護者の一定の理解が得られた。また、新しい取組である合唱発表会は、多くの児童・保護者から支持された。来年度はエアコン、体育館のつり天井工事が行われるが、保護者に理解と協力を得ながら、短時間でも質の高い行事となるよう努めていきたい。
- (4) 児童の安全確保については、見守り隊やながぐつの会、P T Aと連携して対応していることが、高く評価された。コミュニティスクールに移行し、今年度はPタイルの張り替えを教職員と地域の方で連携して行ったが、今後も継続しながら絆を深めていきたい。

《課題》

- (1) 約18%の児童が、学校へ来るのが楽しくない、授業が楽しくないと感じている。
- (2) 会議や部会が有効に機能していないと考えている教職員が30%いる。
- (3) 教職員間の人間関係がよくないと感じている教職員が30%いる。

6 改善策

- (1) 児童との個別の面談期間を増やすと共に、悩み相談箱の活用、スクールカウンセラーなどの外部の人材活用で児童の悩みに可能な限り丁寧に応えていきたい。
- (2) 企画委員会を廃止し、部会について4役の誰かが入ることで機能強化をしていきたい。
- (3) 教職員の声に耳を傾け、よりよい学校運営となるべく、すばやい改善と大きな改革に心がけていきたい。また教職員が協力し、風通しのよい職場となるよう報連相を大切にしていきたい。

